

国際文化学部 国際文化学科

ディプロマ・ポリシー

1. 卒業要件

以下に掲げる修得する能力を身に付け、専攻科目から 78 単位以上、共通科目から 34 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 16 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（国際文化）の学位を授与する。

2. 修得する能力

- (1) 地域と世界、文化と芸術に関する専門的知識を修得している。
- (2) グローバルな視野を身に付け、かつ主体的に判断し活躍できる。
- (3) 地域社会及び国際社会において貢献し、現代世界において活躍することができる。
- (4) 情報社会において適切な情報を処理できる。

3. 卒業後の進路

卸・小売り、マスコミ・情報、金融、運輸・旅行関連の各業界及び国際協力機関、中学校・高等学校の教員及び博物館・美術館の学芸員等への就職、更に国内・国外の大学院への進学が期待される。

カリキュラム・ポリシー

1. 体系（構成）

- (1) 国際文化学科の授業科目は、専攻科目・関連科目・共通科目から構成されている。
 - ①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
 - ②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
 - ③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
- (2) 1 年次は、文化を普遍的に探究する方向性を持った科目群である文化論部門の各科目を履修することによって、広い視野を獲得する。また、必修科目の基礎演習で、大学における学修の基本を学び、各研究分野の概観を把握する。
- (3) 2 年次の必修科目である専門演習 I では、以下の 6 つのコースのいずれかに所属し、担当教員のもとでの本格的な演習において、専門的な指導を受ける。
 - ①日本文化コース
 - ②中国・アジア文化コース

- ③アメリカ・太平洋文化コース
- ④ヨーロッパ・地中海文化コース
- ⑤比較文化コース
- ⑥表象文化コース

- (4) 3年次の必修科目である専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰで身に付けた基礎力を更に展開、発展させ、4年次の卒業論文作成の準備を行う。
- (5) 4年次の必修科目である卒論演習では、担当教員の指導のもと、個人のテーマに従って関係文献を調査、読解し、また共通のテーマに従ってクラスでの討議を継続し、その成果を卒業論文に集約する。

2. 特色

- (1) 地域及び文化、芸術に関する専門知識を習得するための多様な専攻科目を履修できる。
- (2) 外国語を重視し、幅広い共通科目（人文、社会、自然）を履修できる。
- (3) 国際社会・グローバル社会で活躍できる人材を育成するべく受講者の意欲と価値観に対応した幅広い専門の演習を選択履修できる。
- (4) 多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる教育を行う。

3. 具体的な教育内容

〔演習・卒業論文科目〕

基礎演習では大学での学修やプレゼンテーションの仕方を学び、2・3年次の専門演習Ⅰ・Ⅱにおいては、各自がゼミに所属し、資料収集の方法やプレゼンテーション力を高める。4年次の卒論演習では、各自の研究テーマに従って文献資料の収集、現地調査等を行い、そこで得られた成果を卒業論文に集約する。

〔文化論部門科目〕

文化基礎論では、教員が特定のトピックを取り上げて文化理解の基礎に関する講義を行う。また、文化のダイナミズムでは、複数名の担当者が1つの大きなテーマをめぐるリレー形式で講義していく。自由に選択することができ、広い視野を獲得することが可能となる。

〔日本文化科目〕

グローバル化の時代にあって、真の異文化理解を図るためには、自国の文化や社会及び歴史についての理解を深めることが大切である。先史から近現代にいたる日本の歴史を学ぶとともに、文学やアニメーション等を通して現代日本文化への理解を深める。

〔中国・アジア文化科目〕

中国の歴史、言語、文化を中心に、日本や東アジア諸社会の文化との関係性も視野に入れながら、文学、思想、民族、歴史等を学ぶ。また、グローバルに展開する現代世界における中国語文化圏の広がりや展開について学びを深める。

〔アメリカ・太平洋文化科目〕

多民族国家アメリカの歴史、宗教、思想、多文化主義、外交等を多面的に学び、理解を深める。また、19世紀以降、相互の交流を深める太平洋諸地域、アジア社会等との諸関係に

ついて、グローバルな視野に立って考察する。

〔ヨーロッパ・地中海文化科目〕

ヨーロッパや地中海地域を中心に、神学、哲学、思想、歴史等を学ぶ。考古学、文献学、ドイツ文学、オペラ等への理解を通して、ヨーロッパから世界に視野を広げ、グローバル化のプロセスにおけるヨーロッパ・地中海地域への理解を深める。

〔比較文化科目〕

現代世界において文化はダイナミックかつ多様な展開をみせている。ヨーロッパを中心にそれらの文化のおもとなる思想や文明のありかたを概観するとともに、比較文化的視野に立ってアジア太平洋地域の文化のありようについて理解を深める。

〔表象文化科目〕

グローバルな視野に立って、絵画、建築、写真、映画、マンガ、アニメーション、音楽、舞踏等、人間の五感によって表象された対象すべてを「文化」として取り扱い、それを、言語を使って論理的に分析・解釈・再表現したり、思想的、経済的、政治的にアプローチしていく。

〔専門外国語科目〕

本学部独自の専門的な外国語科目で、英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、イタリア語等が準備されている。研究資料の講読等に必要な読解を中心とした高度な専門的語学能力の養成を目指している。

〔学部共通科目〕

上記の各文化コースで学ぶそれぞれの科目に関連した思想、歴史、文化等に関連する科目を配置し、文化や社会を理解するための手助けをする。また、本学部独自の社会調査士資格取得プログラムのための基礎的な科目を準備している。

〔自由研究科目〕

海外における外国語現地学習を行いながら、現地の文化に触れ、そこでの学びを通して、より高度な語学力習得と異文化の多面的理解につとめる。また、各自の関心に従って、文化や社会に関わる研究テーマをたてて自由研究を行い、探求心を養う。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

国際文化学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2) 広く文化、社会、歴史について学ぶ積極的な意欲を持ち、その獲得のための基礎知識並びに一定の学力がある者。
- (3) 国際的関心を有し、思索に富み、異文化理解に積極的に関わることが出来る者。
- (4) 価値観の多様な社会の中であって将来も自己を失わずに積極的に活躍できる者。

2. 選抜方法

国際文化学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜（一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。

- (2) 特別選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

特別選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、指定校推薦入試では、国語の評定平均値を出願資格に加えることにより、国際文化学科において専門知識を修得するための国語力を有する者を評価する。特別選抜入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

- (3) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。